

平成29年度 第1回石狩市社会教育委員の会議 議事録

日 時 平成29年6月8日（木曜日）午前15時00分～16時30分
会 場 石狩市公民館第一研修室
出席者 木村委員長、大橋副委員長、加藤委員、石井（量）委員、石井（滋）委員、
榎本委員、宮田委員、相馬委員、船木委員、平委員、高橋委員、松本委員
事務局 東次長、須藤主査、斉藤主査（社会教育主事）栗谷主査（社会教育主事）、
薩来主事
傍 聴 堀 弘子

斉藤主査：それでは会議を始める前に、石狩市社会教育委員でおられました大黒利勝氏がご逝去されました。つきましては故人のご冥福をお祈りさせていただきたく一分間の黙祷を捧げたいと思います。それでは皆様黙祷をお願いいたします。

（黙祷）

斉藤主査：本日はご多忙の中お集まりいただきありがとうございます。ただいまから平成29年度第一回石狩市社会教育委員会の会議を開催させていただきます。初めに木村委員長よりご挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

木村委員長：今日はどうもありがとうございます。皆さんに哀悼の気持ちを捧げていただきましたけれども大黒利勝さんについて、色々な思いがありますので少し申し上げたいと思います。

大黒さんは厚田地域を代表する社会教育委員の一人として参加していただき、平成26年に厚田区で厚田の大事な宝物をみんなで探そうというワークショップを誰よりも楽しく参加していただいて、その取り組みをととても喜んでいと聞きました。去年の社会教育主事講習の時にはちょうど社会教育主事講習の参加者の中に大黒先生の教え子がいらっしやって、その出会いをととても喜んでおられました。そういう私たちが予想もしないような出会いが出来るのが社会教育だと改めて思いました。

もうすぐ全国大会が迫っておりますので、色々皆さんにご意見をお聞きして進めていきたいと思ひます。

斉藤主査：ありがとうございました。続きまして本年4月の人事異動で社会教育課に配属になった職員がおりますので紹介いたします。

(職員紹介)

斉藤主査：それではこれ以降の議事進行につきましては、木村委員長にお願いしたいと思います。木村委員長よろしくお願いします。

木村委員長：会議次第にしたがいまして、会議を進めていきたいと思います。皆さんのお手元に私のメモが配られていると思いますが、平成 29 年度第 1 回石狩市社会教育委員の会議への提案（メモ）、それを見ながら話を聞いてもらいたいと思います。

報告として、平成 29 年度北海道社会教育委員連絡協議会総会が 4 月 20 日に「かでる 2・7」で、また、平成 29 年度石狩管内社会教育委員連絡協議会の総会が新篠津村でありました。

まず平成 29 年度北海道社会教育委員連絡協議会の総会についてですが、平成 29 年度活動方針(案)と書いてある資料です。活動方針が決まりましたが、会計のことで議論になり、研修会の講師料や旅費などの件で、定期的な行事については、次年度以降しっかり予算を立てるようにということに決まりました。

もう 1 つは総会資料内にあります「行政関係者と地域住民等が協働して」ということの文を、「地域住民等と行政関係者が協働して」に修正しました。社会教育は地域住民が主体であるので、行政が先にあるのはおかしいのではないかという提案でした。

主な話し合いになったのはその 2 つの点でしたが、総会で議題になったもう 1 つが第 59 回全国社会教育研究大会の成功についてです。これは特に、9 月 11・12・13 日にどれくらいの参加者が見込めるのかということ。それから各市町村の市民から 100 万円の寄付を目標に集めているが、どれくらい進んでいるかということでした。

道内からは全体で 1,200 名の内、800 名の出席を見込んでいます。そうすると全道全体の社会教育委員の 4 割以上が参加しなければ 800 名にならないわけで、特に札幌に近い石狩の方はたくさん積極的にでてもらいたいということです。

それから 100 万円については、催促が来ていて 6 月末が期限になっていますが、私としては、状況を聞いた中では 100 万円がそんなに苦労せずに集まるのではないかなと思っていて、それですけども、事務局は締切を間近に控えて、集まらないということを大変心配しています。

石狩市としては今のところ、私が責任者をしている財団、その他の企業に協力していただいて、2 口ほど出していただくことになっており、それで十分だと思っています。社会教育委員連合会として広告を出すというところもありますので、全道のお金の集まり方、どういふ方に出していただいて 100 万円を確保しているのかなど様子を見ながら、判断をしたいと思います。もしも民間企業等からはそんなに広告をいただけないようでしたら、むしろ石狩管内の社会教育委員連絡協議会で負担するという考えもありますので、その時はまた

改めて皆様にお諮りいたします。

平成 29 年度の石狩管内社会教育連絡協議会の総会については、お配りしてある資料の中に閉じてありますのでご参照ください。協議の中心は 9 月の全国大会をいかに成功させるかということでした。

今のところ、前回の社会教育委員の会議の中で 11 名にお手伝いをしていただくということで手を上げていただきましたが、時間がきちんとまだ決まっておりません。会場の使用状況から最初の案は夜に行なうというようなことも伝えられてきています。夜だとこの間手を上げていただいた方が、皆が参加することは難しいので、出来るだけ昼間に、皆が参加できるような時間帯で行なうようお願いしようと考えております。

北海道社会教育委員連絡協議会総会とそれから石狩管内社会教育委員連絡協議会総会についての報告をさせていただきました。なにかご質問とかご意見はございますか。全国大会のことについては、また改めて皆さんにご意見をいただく時間があると思います。

(意見なし)

それでは次に、議事に入りたいと思います。平成 29 年度石狩市芸術文化振興奨励補助金について事務局から報告をしていただきます。

須藤主査：それでは、「平成 29 年度 石狩市 芸術文化振興奨励 補助金」について、事務局よりご説明申し上げます。

(以降説明)

以上で説明を終わります。よろしくご審議をお願いいたします。

木村委員長：どうもありがとうございます。皆さん何かご意見ご質問はございませんか。暮らしに生かす食文化の方の事業費がこのように多くなる理由はわかりますか。

須藤主査：ほぼ印刷関係の経費となっております。

木村委員長：要するに 500 部の活動記念冊子の印刷に、需用費 475,000 円のほとんどはこれに掛かるということですね。

須藤主査：はい。

宮田委員：冊子はどういう方に配られますか。

木村委員長：約1部あたり1,000円くらいかけて印刷することになりますが、それはどこに配付されますか。

石井（量）委員：もし自分が欲しいと思ったらどこに行けば手に入りますか。

須藤主査：市や教育委員会、道普及センター、JA等関係団体を予定しております。

木村委員長：要望としてはできるだけ希望する人に配布されるようお願いしたいと思います。市民の欲しいという人に情報が届く、連絡をすればいただけるような工夫して考えていただきたい。

東次長：対応させていただきます。

木村委員長：ただいまの件についてご意見や異議がなければこの件に決めたいと思います。それでは引き続き、協議の「平成29年度社会教育委員の取り組みについて」に移りたいと思います。先ほど、参照していただいた石狩市社会教育委員の会議での提案のメモをもう一度ご覧ください。3番目の所に今年度の社会教育委員の取り組みについての提案があります。

今年度の取り組みは大きく分けると3つ考えております。今まで少しお話してきましたが、1つは9月に開催される社会教育委員の全国大会を成功させるということです。ご都合のつく方は可能な限り参加していただきたい。分科会が6つに別れていて、皆さんの希望をお聞きして基本的には社会教育委員の皆さんが参加したい分科会に出ていただきますが、色々な分科会に出ることが望ましいと思いますので、若干の調整をさせていただきたいと思います。その時に折角ですので、これまで石狩市の社会教育委員の会議がどういう取り組みをしてきたかということについて、皆さんに持っていただくパンフレット、小冊子を作って、それを読めば分科会で発言をできるようにしたいと思っております。

もう1つは、厚田、浜益の地域づくりについて、実践につながるような学習の場を設けるということです。今までの取り組みとして、平成25年から26年度にかけて「社会教育委員とともに学ぶ講座」ということを行なってきました。これは地域の社会教育をどのように進めるかということについて、意見を反映させ、計画づくりに参加するのが社会教育委員の役割の一つですので、そのためには社会教育委員自身が地域課題を知り、学習課題を発見することが大事であって、厚田や浜益のことを含む石狩市全体のことをよく知るということを目的に、社会教育委員自身が市民の皆さんと一緒に学ぶ講座というものを開催しました。

次に②ですが、この平成25年度、26年度の講座で学んだことを踏まえて、平成26年度には平成27年度から始まる石狩市教育プラン後期基本計画に社会教育委員の会議としての

意見を反映させる取り組みをいたしました。これは今年の取り組みの3番目の課題と関わりますが、さらに厚田区で地域の宝を確認するワークショップを実施しました。

それから平成27年28年度には、北海道教育大学主催の社会教育主事講習と連携し、石狩の厚田・浜益を見学したり、石狩市の社会教育事業の話を知ったり、見学したり、パネルディスカッションを行ないました。厚田・浜益の社会教育の課題を現地見学し、皆で話し合うことをしてきたわけです。

それを踏まえて2番目には今年は厚田・浜益の地域づくりについて、実践につながるような活動の場を広げたいと考えております。そのためには厚田・浜益のキーパーソンへのヒアリングを行ないたいと思っています。

社会教育委員の皆さんには、誰がキーパーソンなのか、提案や助言を頂きたい、つまり厚田や浜益の地域作りや社会教育について鍵になるような人、今までも、色々な方にお話を伺ってきましたが、そういう方も含めてさらに厚田や浜益の地域づくりを考える上でこの人にはぜひ話を聞いておいたほうがいいというような方に聞き取り調査を行い、そこからパネルディスカッションあるいはワークショップの課題を考え、事業を企画したいと考えております。

6月の後半以降にヒアリングを始めたいと考えていますが、ヒアリングについては対象となる方の都合に合わせて、日程が決まり次第、それを皆さんにお知らせし、参加を希望する方には一緒に参加していただくというようなことができればと考えています。実際にヒアリングをし、それを踏まえてパネルディスカッションやワークショップを開催したいと思うのですが、これは私と事務局が中心となって話し合って準備します。この話し合いの場も参加を希望する方には出ていただきたいと考えております。

先程もお話ししましたが、平成26年に行なった厚田のワークショップは、私たちにとってはとても勉強になりましたが、厚田の方にとってはどうだったのかということを考えると、厚田のことを石狩の人たちが考えてくれるのは歓迎するが、そんな話し合いをまた行うのかというような声がないわけでもありません。そこで、もう一步その話し合いを生かして実践に結びつけるにはどうしたらいいのか、どんな実践をすべきなのかなど、一步踏み出すパネルディスカッションやワークショップをヒアリング後に企画をしたいと考えております。

そうするとこの提案の地域づくりの先頭に立っているような行政職員の方や地域協議会の中心になっている方も、もちろん地域おこし協力隊、農業、漁業で頑張っている人、場合によっては将来社会教育委員になってもらえるような方などいろいろな意見を聞きたいと考えております。最初にお会いした方から次にヒアリングする方についてのご意見を聞き、広げていくということも含めて考えたいと思います。これが2番目の課題です。

実際のパネルディスカッションあるいはワークショップは農業の畑の仕事が一段落ついた頃に実施することを目指して取り組みたいと思います。第2回の社会教育委員の会議を10月ぐらいに予定されていますが、その時に話し合うのでは遅いので、そのときには参加

の確認などを進めたいと思います。

3 番目は全体の会議の中で石狩市教育プランでも社会教育委員の提言として反映させていることですが、石狩市の地域課題の解決を目指す講座について検討を行なうということです。社会教育委員の会議から提案が出された高齢化、コミュニティづくり、子育て支援に対応する事業について福祉行政やその関係者など他分野との連携や町内会、コミュニティを単位とする狭域的な事業の企画・開発も含め実施を検討する。つまり全市的な講座ということだけではなくて、もう少し狭い地域の連合町内会や地域、社会福祉協議会、民生委員など、行政の人たちと協力しながら講座を一緒に組み立てていくような取り組みも検討してみましようということです。これについては、特に今後どう進めるべきかについて皆さんからの意見をお聞きしたいと思います。

今年度の取り組みとしては、今お話ししたような 3 つ。1 番目には社会教育委員の全国大会の成功、2 番目は、厚田・浜益の地域づくりの実践につながるような学習の場の企画を実施する、3 番目は石狩の地域課題の解決を目指す講座について検討するということです。必ずしもいつ開催するっていうのも決めているわけではありません。準備が間に合えば今年度中に、間に合わなければ、じっくり考えながら進めるための準備を今年行いたいと思います。今後のスケジュールなども含めて皆さんからご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。私としては事務局と相談しながら、このニーズをのことを考えているのですが、皆さんからは何かやりたいという希望があれば出していただければと思います。

高橋委員：2 番の厚田・浜益の地域づくりについては、地域の人が喜ぶような講座、地域の人が歓迎するような、その地域にメリットがあるようなものがないと覆います。

木村委員長：会場については、厚田や浜益というのはあるかもしれませんが、厚田で考えていますが、必ずしも厚田でなければいけないということではなくて、むしろ厚田や浜益のことを石狩市の人に聞いてもらいたという意見が強ければ、厚田や浜益の人に旧石狩市に来ていただき話をしてもらい、旧石狩市の人に出てもらう。そういうことも含めて、今それぞれ皆さんがご自分の色んな取り組みの中で一体社会教育としてどういう風に取り上げてもらいたいのか、自分たちの地域のことを旧石狩市の人達にどんなことについて知ってもらいたいのか、そういうことについてまずヒアリングをした上で、それからどういうテーマでどういう人に話しをしてもらってどこで討論するのかを決めたいとは思っています。私としては平成 26 年にやった厚田のワークショップを踏まえながら、次の日からこういうことをやりましようということが話し合いの中から生まれてくるような、そういう講座を始めたい。そのために地域の人から意見を聞くという考えの提案です。

高橋委員：厚田の地域おこし協力隊に、オペラ歌手の今野君がなったので、厚田の夕日の丘あたりで盛んにコンサートが開けたらいい。協力隊でいるうちにそんなイベントができた

らいいと私は思いました。

木村委員長：もちろん今野さんにも、コンサートのヒアリングをしようかと思っています。たぶん今野さん自身が地域おこし協力隊として厚田でどんなことをしたいと思っているのか、自分のその希望や夢を実現する上でどんな課題があってどういう支援が必要なのかとか、そういうことについては当然ヒアリングの中に含まれています。

高橋委員：今野君は、十年まえくらいに、歌の催し物やったときにつながりがありますし、地域との結びつきもかなりあります。北中の卒業生なのでブラスバンドにもいましたので、かなり期待してもいいかなと思います。

木村委員長：ミニコンサートの的なものと、他のワークショップ等を結びつけるということもできるかと思います。

高橋委員：今まで地域の合唱団や音楽関係者と歌っています。

木村委員長：そういうネットワークの中心になることができるかもしれないということですね。それだけでも意味があるとは思いますが。コンサートを開催するのも一つですが、それとももっとネットワークを活用するなど。

高橋委員：一人では無理なので、やっぱり応援隊が必要かと思っています。

木村委員長：そういうことも含めて、地域の方がどう思うかということも含めてヒアリングしないといけない。

高橋委員：今年度協力隊になったばかりなので、来年考えた方がいい。

石井（滋）委員：こちらで企画しようということではなく、地元の方にどういうことをしたいか聞こうということがまず大事。

石井（量）委員：前にワークショップを行なったとき、厚田の人たちが、これまでこのようなことを何回も行なってきて、ここから先を自分たちがどうしたらいいのかが分からないと言っていました。地域おこし協力隊の人達が厚田に入っているのです、前から厚田にいる人と何か違う目線など、何かあるんじゃないかと思っています。

木村委員長：新しい地域おこし協力隊の方も対象になり、今まで地域おこし協力隊もまだ石

狩と関わりながら色々活動しているということもあるので、そういう方達にも地域おこし協力隊3年間の体験談など、当然ヒアリングの対象になると思います。皆さんの中でも厚田や浜益にはこういう人がいるよ、あるいは石狩でもたとえば厚田や浜益のことを良く考えていて、石狩のこれからのことを考えている人いるからあの人など、ご提案があれば是非していただきたい。その方々もいつお会いしてお話を聞くのか事務局と相談しながら、日程が決まれば、ぜひ同行してください。

もちろん学習の方も企画しますが、一番勉強になるのは準備を進めるということが一番勉強になります。せっかくの貴重な学習の場を私だけで独占しないで皆さんにもそういう機会を提供するので参加していただきたい。都合がつけば一緒に同行してくださったり、ただ皆で時間を調整してるとなかなか向こうの方の都合に合わせるのが大変なので、向こうの方の都合を第一にして計画をつくるという風にして進めていきたいと思っています。

相馬委員：浜益のことについてですが、2016年の2月10日の浜益フォーラムを浜中で行いましたが、中学校生全員と当時の地域おこし協力隊と当時の浜中の先生なども含め、この催しを企画してもらったんですが、講演の具体的な内容は省きますが、講演については、「地域に人を呼び込むには」というテーマで総合商研株式会社の藤森氏に講演をしてもらいました。中学校のプレゼンテーションもありまして、浜中生と地域の人との意見交換、グループごとの発表を行ないましたが、私としてはこのフォーラム大変良かったと思っています。地域の子供たちと大人と一緒に色んな浜益の未来を語り、大変盛り上がったと思っています。

浜益は過疎化が問題になっておりますが、やっぱり今居る人、子ども達も含めてこういう機会が絶対必要だと思っています。

先ほども言いましたけれども、この中身については最高の効果だったと私は思います。具体的な話になりますが、旧石狩地区と浜益区の関わりにすごい意見が出ています。また、札幌市と石狩市浜益区との関わり、特に浜益区は高校がないですから、中学校卒業すると大半は札幌市に出てしまうということが多いものですから、子供たちから見る真剣な意見が多数出ていましたし、中学校の先生も一生懸命考えてくれているんだなと個人的には思いました。

今までの話の中で厚田区・浜益区の中でできればいいと思います。浜益の地域おこし協力隊の3年間で終わりました。地域おこし協力隊はものすごく地域の中で活動します。3年間で終わってしまったということで残念でした。そういった方も含めて地域の浜益は小1校中1校ですから、先生方と連携取りながら、地域の中には小さいながらも色んな社会教育団体があります。

そういった方と連携を取りながら行事などを行なっていく必要があると思っています。できれば私たちも地域の中にいるからには頑張りたいと思っています。

木村委員長：ありがとうございます。相馬さんから前にもフォーラムのことについてお聞きしていただきましたので、できれば報告のようなものがあれば、読んで予習してそれを読むとまたどなたに話を聞けばいいのか思い浮かぶかもしれません。そういう作業をした上で、浜益については、伺って話を聞いてきたいと思います。

1 番目については、私今 3 つの課題をあげましたが、今 2 番目のことについて意見を伺っていますが、1 番目については日程、お手伝いをしていただくというただ参加していただくだけではなくて 1 日目の全体会を準備するっていう役割が回ってきていますけれどもその会場設営などをいつ実施するのかっていうのがまだ決まっています。それについては皆さんにお知らせしてもう一度ご都合をお計りたいということです。

2 番目については今ご意見を伺いました。意見がありましたら是非お願いします。

大橋委員：4 月に町内会会長を引き受けて、地域福祉協議会の取り組みを知りました。その中で、「ふれあい会食」があります。私も役員になり、その内容を初めて知りましたが、地域にも意外と周知されていないことがわかりました。

社会教育委員の会議で、「社会教育の課題」として高齢者・子育て等の問題に取り組んでいます。市全体の課題の取り組みが町内会の中で具体化され、取り組まれていくといいなと思いました。

市社会協議会の地域コーディネーターの取り組みが記事となっていました。このように社会教育の取り組み、活動が広く市民に周知されていく機会が大事だと思いました。

木村委員長：私は今、札幌市の西区の西町という地域の連合町内会でその人達と居場づくりの講座に関わっています。札幌市はまちづくりセンターというのが市内にたくさんあります。そこを拠点にして居場所づくりというのを社会福祉協議会が「福まちづくり」という福祉のまちづくりセンターをやっているのですけれども、うまくいかない。うまくいかないのは、居場所というのはいつも開いていなきゃいけないんですよね。要するに悩んで決意して相談に乗ってもらおうと行った時に開いていなければ意味がない。だから一週間に 2 回くらい 2 日くらい午前中だけ開いているだけでは居場所にはならないわけです。でも、町内会も民生委員も社会福祉協議会も皆役員は、金太郎飴みたいなので、これ以上仕事を増やしたくないと思っているんです。だとするとどうすればいいかというと、当然それが今やっている人達だけでやろうとしないことです。

もっとこういう意味のあることを面白いことをやるのであれば、私も関わってみたいという人を増やさなきゃいけないので、そういう取り組みをしようということで講座を 3 回くらい行なって、最後は大焼肉パーティーをやるというのと、まちづくりセンターで居酒屋にしてみようという取り組みが最期の 3 回目の講座の最後に提案されて、焼肉パーティーを行ないました。もう一つはそこで 100 円コーヒーを始めましょうと市町内会の人達が、その 100 円コーヒーを提供するようになると人の数が増えたそうです。具体的な次の行動

一步を踏み出して学んだ後は、何か新しい取り組みが生まれるような講座を一緒に考えてやってみたいと思います。

一応皆さんにご意見を伺いました。これからもご意見を頂いて皆に直接一人ひとりにできればお話を聞きながら進めていきたいと思えますけれども、なにか皆さんからご意見ございませんでしょうか。よろしいですか。

(了承)

それではこういうことで、進めていきたいと思えますし、今後の連絡をさせていただきたいと思えますので、是非ご協力くださるようお願いいたします。私としては、楽しく進めていきたいと思っております。どうもありがとうございました。それでは、次にその他に入りたいと思えますがその他については事務局からご説明を頂きたいと思えます。

東次長：「キックオフフォーラム」についてご説明いたします。

(以降説明)

木村委員長：それでは以上で本日の議題などはすべてご了承いただきました。事務局から次回の日程についてお願いします。

斉藤主査：次回の日程についてはまだ決まっておりませんので、決まり次第皆さんにお知らせしていきたいと思えます。

木村委員長：それでは、以上を持ちまして第1回石狩市社会教育委員会の会議を終了したいと思います。どうもありがとうございました。

議事録は上記のとおりであることを認めます。

平成29年 7月 7日

石狩市社会教育委員の会議 委員長 木 村 純